

■前島密 内務官僚。郵便制度の創始・電話事業の開始・国字改良など、維新直後のメディア近代化に決定的役割。

まえじまひそか
滑稽+人情本 1835＝ 越後国下池部村(上越市)で、豪農上野家に生まれた。この年、父が病没し、

大塩平八郎乱 1837＝ 2歳： もっぱら母に養育される。

天保改革弾圧 1842＝ 7歳： 糸魚川に移ったのち叔父の藩医相沢文仲の養子となる。

天保改革終・ 1844＝ 9歳：
阿部正弘首座 1845＝10歳： 高田の倉石典太の塾に入る。

・・・・・・ 1847＝12歳： 江戸に出て漢学、蘭学を学ぶ。
叔父の死去で復籍し、
幕府の医官について苦学のかたわら、写本の筆耕にたづさわり兵法を修得。

ペリー来航・ 1853＝18歳： 米艦を見るため浦賀に赴く。
開国開港・ 1854＝19歳： 国防の策を立てようと西日本の海岸線を視察。
安政大地震・ 1855＝20歳： 西洋砲術を学び、英学に開眼。

蕃書調所・ 1857＝22歳： 幕府の海軍操練所の見習生となり、機関学、操船術を学ぶ。
五ヶ国条約・ 1858＝23歳： 箱館開成所に入る。
安政の大獄・ 1859＝24歳： 航海学実習生として箱館丸に乗り込み、日本の沿海を一周。
桜田門外変・ 1860＝25歳： 再び沿海を周航。
遣欧使節・ 1861＝26歳： 対馬に赴いたのち長崎へ、
生麦事件・ 1862＝27歳： この年より長崎に滞在して学ぶ。
8月18日政変 1863＝28歳： 訪欧を企てるが失敗。
禁門の変・ 1864＝29歳： 長崎に私塾を開く。
薩摩藩士密航 1865＝30歳： 薩摩藩に招かれ鹿児島で英学を教授ののち江戸に帰る。
薩長同盟・ 1866＝31歳： 結婚し、幕臣前島家を継ぐ。早くも「漢字御廃止之議」を建議し、国字改良論者として知られるようになる。
大政奉還・ 1867＝32歳： 開成所の数学教授ののち、神戸開港の事務に従事。慶喜に「領地削減之議」を建議。
明治維新・ 1868＝33歳： 江戸に戻って、大久保利通に「江戸遷都」を建言したのち、駿河藩御用ため静岡に移る。
戊辰戦争終・ 1869＝34歳： 明治政府の民部省に出仕。
初の日刊新聞 1870＝35歳： *租税権正と駅逓権正を兼任し、郵便創業の建議を行ったのち、渡欧。
廃藩置県・ 1871＝36歳： この建議に基づいて郵便事業は、彼がイギリス出張中に創業された。帰国後、駅逓頭に就任し、郵便切手の発行、郵便ポストの設置、時間を設定した業務運行を実施、“郵便”という名称も考案。
明治6年政変 1873＝38歳： _{ひらがなしんぶんし}を創刊。均一料金制の実施、郵便事業の独占、日米郵便交換条約の締結。

初の民間工場 1875＝40歳： 郵便貯金の創業。
三つの反乱・ 1876＝41歳： 内務少輔になる。相変わらず駅逓頭を兼任。
西南戦争・ 1877＝42歳： *万国郵便連合への加入も彼の指導による。駅逓局長を兼任。
大久保暗殺・ 1878＝43歳： 元老院議員を兼務。

・・・・・・ 1880＝45歳： 内務大輔になる。
明治14年政変 1881＝46歳： 明治14年の政変で大隈重信らと下野した。
新体詩抄・ 1882＝47歳： 改進黨の結成に参画。東京専門学校(早稲田大学の前身)の創立に尽力。

国民之友始・ 1887＝52歳： 東京専門学校校長に3年間就任。関西鉄道株式会社社長に就任。
初の対等条約 1888＝53歳： *通信次官に復帰すると、
帝国憲法発布 1889＝54歳： 郵便及電話局官制の制定に尽力。定期刊行物問題を解決。
帝国議会始・ 1890＝55歳： 東京郵便電信学校の設立に尽力。電話事業を国営で創業にこぎつけて、
足尾鉋毒始・ 1891＝56歳： *引退。

日清戦争始・ 1894＝59歳： 北越鉄道株式会社社長に就任。

子規句歌革新 1898＝63歳：
Bushidou・ 1899＝64歳： 帝国教育会の国字改良部部長になる。
ビア/国産化・ 1900＝65歳： 以降3年、国語調査委員長をつとめる。

教科書疑獄・ 1902＝67歳： 男爵を授けられる

日露戦争始・ 1904＝69歳： 貴族院議員。
日露戦争終・ 1905＝70歳： 日本会員振済会理事長に就任。

韓国反日暴動 1907＝72歳：

韓国併合・ 1910＝75歳： ほとんどすべての役職から退き、

民本主義・ 1916＝81歳：
ロシア革命・ 1917＝83歳： 妻が死去。
ベルサイユ条約・ 1919＝84歳： 没した。

吉川弘文館人物叢書、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、